

マイマイガの森林被害

〇はじめに



写真-1 マイマイガ(左:幼虫、右:成虫(雌)と卵塊)

マイマイガが、会津・南会津地方で大発生しています(写真-1,2)。マイマイガの幼虫は、葉を



写真-2 マイマイガの被害林(喜多方市)

食害しますが、きわめて広食性で、カラマツや落葉広葉樹など100種類以上を摂食すると報告されています。

カラマツや落葉広葉樹は食害を受けても枯れることは少ないといわれています。しかし、2例ですが、植栽後5年のスギや植栽したばかりのカラマツで、枯死被害が記録されています。針葉樹の幼齢林では注意が必要であると考えられます。

〇被害地域

現在、喜多方市、柳津町、昭和村、南会津町で、森林への被害を確認しています。図-1は、樹冠の葉が無くなるほどの食害を受けた樹木が見られた地域を示しています。また、これら地域では、街路樹や庭木のほか、稲などの農作物へのマイマイガ幼虫による加害や、成虫、卵塊も容易に見つけることができたため、非常に広い範囲で、

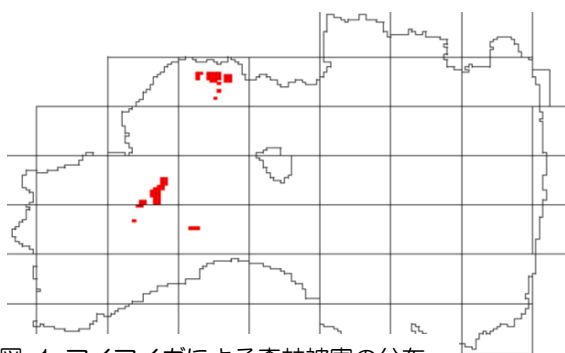


図-1 マイマイガによる森林被害の分布(約1km×1kmメッシュ図、赤色が被害地を示す)

生息密度が高くなっていると考えられます。

〇過去の被害

福島県森林・林業統計書などから、会津地方で過去にも大発生をしていたことが分かりました。

詳細な地域までは特定できませんでしたが、会津若松林業事務所(現:会津農林事務所)の管内(現在の会津若松市、猪苗代町、磐梯町、会津坂下町、会津美里町、柳津町、三島町、金山町、湯川村、昭和村)では、1963年から1990年にかけて5~10年おきに発生しており、被害は2~3年継続していました(図-2)。

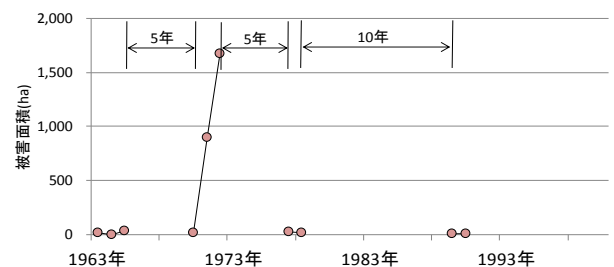


図-2 会津若松林業事務所管内でのマイマイガ被害報告

〇天敵

鳥類や捕食性・寄生性の昆虫など多数知られて



写真-3 病気で死亡したと思われる多数の幼虫(昭和村)

います。中でも、カビやウイルスによる病気の流行が、大発生の終息要因として大きく働くようです。

マイマイガ(古田,1994など)

全国に分布。1年1化。卵で越夏・越冬し、本州では3~4月に孵化する。孵化した幼虫の毛に触れると痒み、発疹が出る場合がある。

幼虫は7月上旬頃に蛹化し、2週間程度で羽化する。雄は屋間さかんに飛翔するが、雌はほとんど飛翔しない。しかし、大発生時には、灯火に雌が多数飛来する。

(担当:森林保全課、会津・南会津農林事務所、福島県林業研究センター)

(文:福島県林業研究センター 蛭田利秀)

平成26年8月22日